慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	中高年起業家の経営行動に関する一考察–研究開発型企業を中心に–
Sub Title	
Author	伊藤誠(Itou, Makoto) 千本倖生
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1320号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1320

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 1320

学生氏名　伊藤　誠

主査 千本　倖生
副査 奥村　昭博
高木　晴夫
古川　公成

所属　千本　倖生　研究室

中高年起業家の経営行動に関する一考察
—研究開発型企業を中心に—

戦後から近年まで、日本の経済的成長を支えてきたといわれる「日本的経営」に劇的な変化が見られる。すなわち、終身雇用、年功序列、企業内組合に代表される経営の在り方が、「企業の存続」という錦の御旗の下に、存在意義を失いつつある。こうした状況下、中高年齢者の生き方は、職業生活、家庭生活の両面において複雑さと難しさを深めている。

第3次ベンチャーブームといわれる昨今である。創業者の起業時年齢はこの30年間で約8歳高くなった（早稲田大学調査）といわれる。中高年齢者の生き方の選択肢に「起業」が浮かび上がってくる。

言わずもがなであるが、起業家の群像をひと言で言い当てるのは非常に困難な作業である。無論、中高年という枠の中においても同様である。

先行の研究によると、起業時の年齢が高いほど「企業成長」「事業の達成満足度」などが低いという。本研究では、中高年起業家に多様な質問とインタビューを行い、中高年起業家の群像を類型化できないかと試み、中高年の起業や起業後の成長にわずかながらの示唆を与え得るのではないかと考えた。

当初考えた評価軸は、起業家自身が考える企業の「成長意欲」と実践としての「企業革新の度合」であった。調査を進める段階で、起業家が「企業革新」の具体的行動として、事業の認知と販売促進を大きな課題として認識し、経営行動に大きな影響を与えていることが明らかとなった。

その結果的、「成長意欲」と「経営資源の事業認知や販売への傾注」という２つの判断要素を評価軸に採用した。この作業により、中高年起業家、およびその起業が４分類され、いくつかの特徴が浮かび上がった。また、各分類の性格をあらわす指標として、「起業家の年収」を切り口にしたところ、顕著な差異が発見された。